

ホンモロコ天然卵からの親魚養成とその採卵

大植伸之・岡本晴夫・磯田能年・米田一紀・大澤宏史

1. 目的

平成7年頃から著しく減少したホンモロコ資源の回復を目的に、平成18年度から大量種苗生産放流が実施されている。

水産試験場では、天然卵からの親魚養成(F0)と(公財)滋賀県水産振興協会が実施する大量種苗生産用親魚(F1)にするために必要な採卵を実施した。

2. 方法

1) 親魚養成

①天然卵の採集

令和2年4月9日から6月19日に、長浜市湖北町延勝寺地先、近江八幡市水ヶ浜地先、高島市新旭町針江地先の琵琶湖、西の湖、西の湖に流入する山本川で、柳の根や水草等に付着したホンモロコ卵を採集した。

②飼育管理

採集した卵から得られたふ化仔魚を、30L水槽に、1水槽あたり約2,000尾までとなるように計数して収容した。収容後は主にツボムシを給餌した。30L水槽での飼育期間は約2週間とした。

その後は、40m²の屋外池に放養して飼育した。放養から2週間はワムシおよびアルテミア、それ以降は配合飼料を給餌した。

2) 経年魚からの採卵

平成29～31年度に生産した親魚から採卵を行った。採卵は、令和2年4月18日から4月20日、4月30日から5月4日にそれぞれ実施した。方法は、自然産卵による採卵とし、水面に浮かべた人工基体に産卵したものを回収した。

3. 結果

1) 親魚養成

①天然卵の採集

卵の採集は、期間中に10回行った。合計30,900尾のふ化仔魚を得た。

②養成

育成期間中は、特にトラブル等がなく、順調に育成することができた。

令和2年11月時点での年齢別の親魚量を表1に示した。0～2歳魚をすべて合計すると、19,139尾、143.0kgとなった。(表1中の重量については、四捨五入の関係で各年齢と合計の間で差あり。)

表1 年齢別のホンモロコ親魚生産結果

年齢	池数(面)	尾数(尾)	重量(kg)
0歳	3	13,338	73.2
1歳	3	4,189	46.9
2歳	2	1,612	23.0
合計	8	19,139	143.0

2) 経年魚からの採卵

時期別の採卵結果および使用目的を表2に示した。4月18日から4月20日に2,695,000粒、4月30日から5月4日に1,355,000粒を採卵した。年齢別にみると、昨年と同様に2歳魚からの採卵量が最も多かった。

卵は450,000粒を当场で使用し、3,600,000粒を(公財)滋賀県水産振興協会へ提供した。

表2 時期別のホンモロコ採卵結果および使用目的

	1回目 (4/18～4/20)	2回目 (4/30～5/4)	計
採卵数(千粒)	2695	1355	4050
協会へ提供(千粒)	2245	1355	3600
当场で使用(千粒)	450	0	450